

基本理念

～創意に富み 思いやりのある
信頼される病院をめざして～



季夏の候、暑さも厳しくなってきましたが、地域の医療機関様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。さて、今回の地域医療連携室第65号では、当院の手外科専門医である蔡（チェ）医師より糖尿病と手の病気の関係性、またその治療について特集をお送りいたしますのでご覧ください。

糖尿病と手の病気について

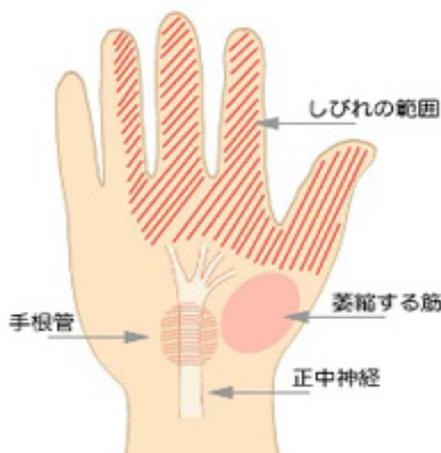
整形外科 副部長 蔡 栄美



2型糖尿病患者の67%には手の疾患が生じているという報告があります。また、罹病期間が長くなればなるほど、手の疾患の合併が生じます。

〈糖尿病に合併しやすい主な手の疾患〉

- ①手指の拘縮40%
- ②デュピトラン拘縮19%（手掌にしこりができて指の伸展制限が生じる）
- ③ばね指17%
- ④手根管症候群14%（母指～環指のしびれ）



〈当院での治療〉

- ①手指の拘縮：原因が様々なので、まずは精査を行います。
- ②デュピトラン拘縮：拘縮の程度によって酵素注射療法あるいは腱膜切除術
- ③ばね指：ステロイド注射あるいは腱鞘切開術（切開1cm）
- ④手根管症候群：装具療法あるいはステロイド注射、手根管開放術（切開3cm）

〈手根管症候群の症状〉



これらの手術の多くは日帰り手術です。糖尿病による手の疾患は、典型的な症状を呈しない症例も多く、診断に至ることが難しい面もありますが、時期を逸すると手指の機能改善が望めない場合もあります。

早期診断早期治療のためにも、これらの疾患を少しでも疑う患者様がおられましたら、気軽に地域医療連携室を通してご紹介いただければ幸いです。

平成28年度市民公開講座

-これだけは知っておこう 病気・治療の豆知識40分講演-

第42・43・44回の市民公開講座の様子をお届けします。お足元の悪い日が続きましたが、たくさんの方々にお越しいただきました。次回は8月24日（水）老人看護専門看護師の稲野Nsによる、「老いによるからだの変化を知ろう！」です。

§ 新型副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎）について § 耳鼻いんこう科 識名 崇 部長

開催日
5月18日(水)
参加人数
32名



耳鼻いんこう科で扱う主な疾患

- 手術（水・午前、木・金の終日）を行う疾患
 1. 鼻副鼻腔疾患：副鼻腔炎、鼻中隔湾曲、アレルギー性鼻炎など
 2. 咽喉頭疾患：扁桃肥大、扁桃炎、声帯ポリープなど
 3. 頭頸部疾患：耳下腺・顎下腺疾患、甲状腺疾患など
 4. 耳疾患：滲出性中耳炎、慢性穿孔性中耳炎、真珠腫性中耳炎など
- 手術以外の入院治療
 1. 突発性難聴、顔面神経麻痺に対するステロイド治療など
 2. 急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎など急性炎症性疾患

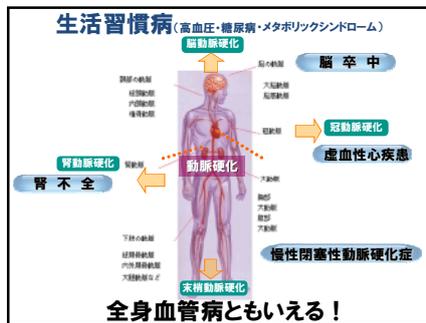


新型副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎）まとめ

- 最近、手術をしても治りにくい「新型副鼻腔炎」が増えてきています。
 - 大人になってから発症する
 - 早期に嗅覚低下を自覚する
 - 鼻ポリープが増大すると強い鼻閉から睡眠時無呼吸を発症
- 軽症例には点鼻、内服ステロイドを含む治療
- 中等症以上には専門施設での徹底的な手術を行った上で、鼻洗浄とともに局所ステロイド薬を投与する

§ ほうっておくと怖い動脈硬化 - 予防の観点から - § 内分泌・代謝内科 平田 歩 副部長

開催日
6月23日(木)
参加人数
55名



動脈硬化予防のために

- ・ バランスのよい食事、運動
- ・ 質のよい脂をとる
- ・ 塩分控えめ
- ・ 禁煙
- ・ ほどほどの飲酒。必ず休肝日
- ・ 内臓脂肪を減らす

§ B型肝炎：診断と治療の進歩 § 消化器内科（肝・胆） 福田 和人 主任部長

開催日
7月13日(水)
参加人数
35名



B型・C型肝炎の比較		
	B型	C型
感染率	約1%	約1%
感染力	強い	弱い
ワクチン	ある	ない
肝病変の進行	人により様々 85~90%はキャリアー状態にとどまる 10%程度が慢性肝炎、肝硬変へ進行	緩徐に進行 30~40年で肝硬変、肝がんへ進行
肝がん発症	50~60代が多い	60~80代が多い
ウイルス排除	不能	可能

B型肝炎とはどのような病気？

- ・ 日本では130~150万人程度の感染者
- ・ B型肝炎ウイルス（HBV）を含む血液や体液により感染
- ・ これまでは母子感染が多かったが、最近は成人後に感染し慢性化する例が増えている
- ・ 感染時期（乳幼児、成人）により経過は大きく異なる
- ・ 一旦感染すると、体から完全に排除するのは難しい